

Title	梅毒トレポネーマの電子顕微鏡的研究(第3主題 性病)(シンポジウム抄録)(<特集>東南アジア医学シンポジウム特集号)
Author(s)	菅沼, 惇
Citation	東南アジア研究 (1967), 4(4): 778-778
Issue Date	1967-02
URL	http://hdl.handle.net/2433/55291
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

毒疹等も多く、又当然多いはずの晩期梅毒についても、専門家が少ない為に、なお検索されざるまものがあるように推測される。

我々としても、これ等の地域の人々に協力して、知識・技術を供給するならば、我々自身の為にも将来役立つ幾多の経験を得る事も可能であろう。

タイ国の性病管理の現況

伊 藤 賀 祐 (岐阜大医学部)

東南アジアにおいて、性病は、第二次世界大戦中に公衆衛生機構崩壊の為もあって、増加したが、戦後再び管理が活発化した上にペニシリン等の抗生物質の出現も効力を発揮して、一旦は急激な減少を示す迄になったが、最近では再上昇の傾向にある。これ等性病の問題のうちで国際的に重要な問題の一つは、最近再び早期梅毒が増加し始め、社会的関心の的となりつつあることである。これは、「これ等抗生物質の出現当時、その効果を過信した医師達によって、不完全治療の行なわれた事が一つの理由である。」と考えられている。殊に私が昨年視察を行なったタイ国内の医療状況をみても、性病は公的診療施設よりも、個人医のもとで扱われる傾向が強い。又、我が国では、常識的に必須と考えられ、実施されている性病の諸検査もこの国では未だかなり不十分であり、当然不完全治療の症例も豊富に存在しているものと考えられ、従ってこれ等保菌者が感染源となっている事が推測される一方、我が国では見られ難いような梅毒の諸型も多数見られる機会に恵まれる。しかも専門家が少ないのみならず、完備した施設も十分なく、ぜひとも国際技術協力が切望される。ここにおいて、国際協力の梅毒対策の具体的方策に就いて検討する。

更にまた、実験梅毒研究の必要性を述べておきたい。申す迄もなく、梅毒についてのあらゆる研究の根本は、スピロヘータ・パリダ自体の研究である。例えば、実験梅毒の免疫の問題にしても、臨床上的観察と相まってなすべき多くの事が残されている。

しかもこのような、「専門家」による国際技術協力のみならず、社会衛生教育の問題もまた、ゆるがせにすることのできないものの一つである。

梅毒トレポネーマの電子顕微鏡的研究

菅 沼 惇 (京都府立医大)

一般にスピロヘータは分類学上 Bacteria と Protozoa の中間に位するとされているが、むしろ Bacteria に近いとの意見が有力である。梅毒トレポネーマの電顕的研究に関しては既に多くの学者により報告されているが、更に検討すべき点も少なくない。

梅毒トレポネーマは電顕的に観察すると、他のスピロヘータと同様に three main structures より成る。即ち 1) Protoplasmic cylinder 2) axial filament および 3) outer envelope である。1) Protoplasmic cylinder は超薄切片法により観察すると、“unit membrane” structure を示す cell membrane により包まれ、mesosome の存在も報告されており、mitochondria を欠除し、fibrous な構造の nucleus を認めるが、核膜は存在しない。これらの点は Bacteria の微細構造と似ている。但し、cell membrane は Bacteria の cell wall と plasma membrane の両者の機能を有すると考えられている。2) axial filament は1本あるいはそれ以上の fibril を含み、梅毒 Treponema では3本の fine filament より成るといわれるが、Reiter トレポネーマでは数本より成ると思われる。この filament の数はスピロヘータの genus により異なり、分類上の参考になると思われる。axial filament は Treponema では cell membrane と envelope の中間にあり、しかも cytoplasmic cylinder と filament は2本の紐をねじった如き状態にある。この filament はスピロヘータの特有な形態を保つのに役立ち、また運動に関係があると考えられている。なお、filament の一端は cytoplasm 中の end knob に anchor している、この点 Protozoa の blepharoplast に似ている。3) outer envelope の微細構造に関しては不明の点が多い。

この他 Treponema は transverse fission を行ない、また encysted form が形成される。これらの点は Protozoa に近い性質である。

以上の如く、梅毒トレポネーマは微細構造において Bacteria と Protozoa との中間に位し、それぞれに共通した構造を有する点で興味深い。